

5 進捗状況

基本目標1 人づくり・基盤整備



①環境教育・環境学習

環境保全活動を促進するためには、市民一人ひとりが取り組むことの必要性を理解するとともに、必要な情報を入手できる環境を整備する必要があります。今後も子どもへの環境教育や市民への情報提供、学習機会の提供などを継続的に実施します。

②環境コミュニケーション、活動の支援

環境保全活動を実施しやすくするため、参加機会の充実、活動資金やノウハウ提供など、必要な支援を実施していきます。

環境 テーマ	指 標	基準値 平成30年度	目指す 方向	進 捗 状 況			達 成
				令和3年度	令和4年度	令和5年度	
① 環境教育・環境学習	小中学生の環境にやさしい生活の達成率 (エコライフチェックシート)	69.4 %	↗	69.1 %	71.9 %	72.1 %	
	環境関連講座等参加人数(市民環境講座、リサイクル体験教室参加者数などの合計)	5,071 人	↗	1,207 人	1,399 人	2,399 人	
② 環境コミュニケーション、活動の支援	エコポイント制度年間利用者数	522 人	↗	437 人	394 人	373 人	
	アダプトプログラム年間活動者数	16,829 人	↗	12,548 人	15,186 人	16,267 人	

※指標の基準値から進捗状況の実績値への数値の変化を以下のように示しています。



基準値から実績値への変化が目指す方向と一致している指標



基準値から実績値への変化がない指標



基準値から実績値への変化が目指す方向と一致していない指標



市民意識調査が実施されていないことにより、達成状況が判定できないもの

環境フェア等イベントの実施

①環境教育・環境学習

【 施策説明 】

こまき環境市民会議への委託事業として、イベントの実施を通じ、環境について学習する機会を提供する。

●取組・実績

「2023 いきいきこまき」内での共同開催として、11/17（土）、18日（日）に小牧市市民会館・公民館にて環境フェアを開催した。

マイバッグ作りや丸太切り、エコドライブ等の体験学習、市内の川に生息する生きものの展示等を行い、環境学習の機会を提供した。



（マイバッグ作りの様子）

アダプトプログラムの活動促進

②環境コミュニケーション、活動の支援

【 施策説明 】

市内の道路や河川等を市民等が里親となって愛情と責任をもって定期的に清掃し、環境美化に対する意識の高揚を図り、市民と市の協働による環境美化を推進する。

●取組・実績

市民、事業者に対し、広報やHPにより参加をよびかけた。

登録団体数 47 団体・個人 5 人、年間活動者数 16,267 人



（アダプトプログラム活動）

その他の取組

テーマ	事業	内容
①環境教育・環境学習	学校版EMSの推進	学校における環境改善活動の一助として学校版EMSを充実し、環境により学校づくりに取り組む意識の啓発を行う。 ➤ 令和5年度9校の現地調査を実施した。
	食を通じた環境教育	6月の食育月間及び毎月19日の食育の日に併せて、食育に関する普及啓発を実施する。 ➤ 6月と12月にドライブスルー型でフードドライブ事業を実施した(6月:31名、12月:31名)。 ➤ 小牧市地区民生委員・児童委員連絡協議会において、地区ごとに月1回程度フードドライブ事業を実施した。
		学校給食を通して市内で作られている農作物に関心を持ち、自然の恵みや栄養価の摂取、食物の生産・流通・消費について理解を深める。 ➤ 7月の家庭配布用献立表に小牧の食材を掲載し、保護者及び児童生徒に周知した。 ➤ 9月～11月に応募献立を実施し、児童生徒に食の関心を持たせた。 ➤ 11月の「愛知を食べる学校給食週間」及び1月の「全国学校給食週間」において、クラス掲示用ポスターで小牧の食材を周知した。

テーマ	事業	内容
① 環境教育・環境学習	環境教育の推進	市内各保育園で園児を対象に、ごみの分別など、環境に心がけた生活を学び、環境保全の大切さを伝える。 ➤ 日々の保育の中で、ごみの分別等を園児と一緒に実践した。 児童を対象として環境学習を推進する。 ➤ 小学４年生を中心に総合的な学習時間において、環境学習を実施した。 ➤ 川の水質調査や里山保全活動等の体験活動を実施した。 ➤ リサイクルハウスの施設見学及びプラザハウスの牛乳パックを使った紙すき体験教室を実施した(計５校、354人参加)。
	環境関連講座の充実	環境関連の市民講座や出前講座、体験教室等の企画・提供により、環境啓発を図る。 ➤ 親子向け市民環境講座「海洋プラスチックごみについて考えよう!」を開催した(7/29 6組 14人参加)。 ➤ プラザハウス常設体験教室を実施した(紙すき 60人、サンドブラスト 162人、とんぼ玉作り 26人参加)。 ➤ プラザハウス特別体験教室を実施した(580人参加)。 ➤ バラ・アジサイまつりにリサイクル関連の体験教室を出展した(263人参加)。
	体験活動の場や機会の提供	子ども達に自然体験活動の場と機会を提供し、身近にある自然に興味を持てるようにする。 ➤ 「兒の森 里山自然体験」を開催した(全6回 31人受講)。 ➤ 自然観察学習講座「身近な里山の自然観察」を開催した(7/2 11家族、11/5 7家族受講)。 ➤ 自然観察学習講座「大山川の自然観察」を開催した(9/10 13家族受講)。 ➤ 「兒の森クイズラリー」を開催した(10/1 4人受講)。
② 環境コミュニケーション、活動の支援	環境保全活動へのエコポイント付与	毎月１回(8月を除く)市内３小学校(小牧・光ヶ丘・小木)で廃食用油の回収を行い、持参者にエコポイントを発行することで、児童への環境保全の意識の向上を図る。 ➤ 5,711pt 発行した(延べ 373人参加、廃食用油 571.1L回収)。
	活動団体の設立支援	市民活動団体設立を目指す方の相談支援を行う。 ➤ 環境保全に取り組む団体として新たに２団体を登録した。
	活動団体間の交流機会の提供	団体間の交流を深め、活動を広げることを目的に「団体交流会」を開催する。 ➤ 団体交流会を開催した(12/9 19人参加)。

評価

講座の参加者数や環境保全の活動者数は、新型コロナウイルス感染症流行前の水準までは戻っていないものの、増加傾向にある。

市民の環境意識の向上のためには、幅広い世代が環境について学ぶ機会を充実させるとともに、様々な方法により環境関連の情報を広く発信することが重要である。

また、環境保全活動の拡大に向けては、環境活動の実践例、取組効果の紹介といった情報の共有や環境活動に参加したくなるよう周知方法を工夫する必要がある。